

診ます会 News Letter



▲山形市救急隊員と救急科の医師

診ます会の先生方には格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。本年4月より救急室長を拝命しました。どうぞよろしくお願いいたします。

当院の救急室は、平日日中の救急車対応、平日夜間及び休日の全ての救急患者の診療を行っております。現在3名の救急科専門医が平日日中を曜日別に分担し、研修医とともに外来診療をしています。平日夜間及び休日は当直医（内科系、外科系、研修医）による対応となっています。

ご紹介いただいた患者さんのほとんどが入院治療の必要な方々です。救急室を経由する場合、診断と初療を行った後に、当該科が専門的治療を引き継ぐ、という流れで対応しています。内科系疾患の場合、すんなりと当該科が決まらないこともあります。このようなケースでは内科系各診療科が日別に交代で担当することとしています。

新型コロナウイルス感染症の流行以来、診ます会の先生方のご苦勞は私どもの想像以上に大変なこととお察しします。当院の救急受診患者数、救急搬送数にも変化が出ています。救急室を受診された患

者さんの総数は、令和元年度までは年間およそ15,000から17,000名（救急車で来院が5,200から5,700名）で推移しておりました。しかし令和2年度では11,625名（救急車で来院4,726名）、昨年令和3年度は12,121名（同4,871名）で、救急車で来院された患者数は約10%減、自己来院の患者数が著減しているのがこの2年の傾向です。

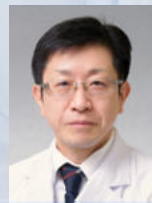
総務省消防庁「救急救助の現況（令和3年版・救急編）」によると、令和2年における全国での急病で救急搬送された傷病者の程度別割合では、3週間以上の入院が必要な重症傷病者が8.2%、入院の必要がある中等症が44.9%とのこと。中等症は増加傾向にあるとされており、この傾向はずっと続いているようです。また山形県も同様の傾向があるようで、益々2次医療機関の必要性が高まっています。当院もこの村山地区の中核病院としてその責務を果たすため、診ます会の先生方とも連携をより一層密にし、努力していく所存であります。あらためまして、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



「令和4年度 第2回 診ます会講演会」より

濟生館における尿路結石治療 — ECIRS を中心に —

泌尿器科 科長 加藤 智幸



はじめに

診ます会の先生方には常日頃より格別のご高配を賜り心より御礼申し上げます。

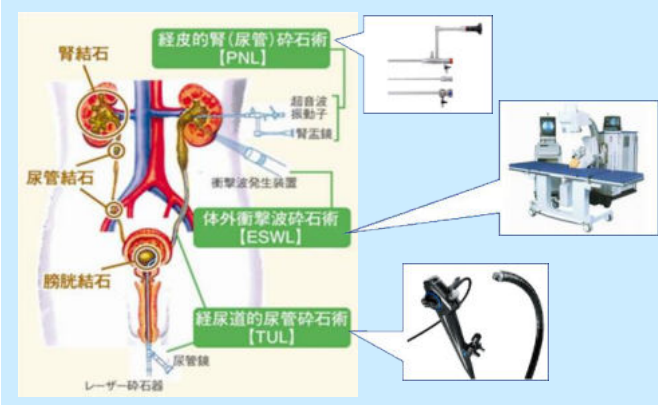
令和4年4月より山形市立病院濟生館に赴任しました泌尿器科の加藤智幸と申します。

本稿では当科において最も件数の多い上部尿路結石の手術療法について、特に最近導入した新規高難度手術である経皮経尿道的同時腎碎石術（ECIRS）を中心に紹介します。

尿路結石の外科的治療

尿路結石症の罹患率は年々増加傾向にあり、男性の7人に1人、女性の15人に1人が一生のうち一度は尿路結石に罹患するといわれています。その背景には肥満、高血圧、糖尿病の増加が関与していることが示されています。多くの症例が、側腹部痛や血尿で発症します。症状発症後1か月以内に自然排石しない尿管結石や10mm以上の上部尿路結石に対しては手術療法が適応となります。尿路結石の外科的治療は主として下記の3つの術式が行われます（図1）。

図1 尿路結石の外科治療

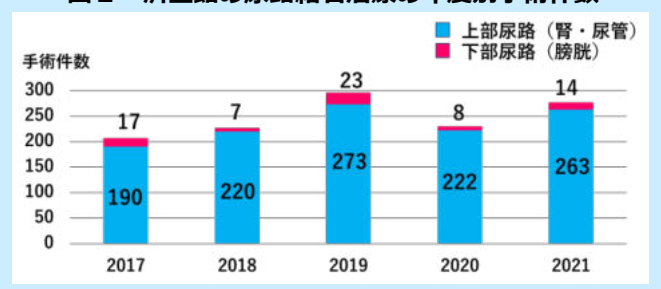


- ①体外衝撃波尿路碎石術（ESWL）：体外で発生させた衝撃波を腎・尿管内の結石に集中させて細かく砕石し、排石しやすい状態にする治療法です。麻酔の必要がなく比較的簡便に施行可能ですが、内視鏡手術に比べると砕石効率は悪くなります。
- ②経尿道的尿路碎石術（TUL）：尿管鏡を尿管や腎盂に挿入し、レーザー等を用いて砕石します。軟性鏡を用いると尿管から腎杯まで到達可能であるという空間的利点がありますが、細径尿管鏡を用いるため、適応が10mm以下の小さなサイズの結石に限られ、砕石に時間がかかるという効率的欠点があります。
- ③経皮的腎碎石術（PNL）：経皮的に作成した腎瘻から腎盂鏡を用いて砕石、抽出する方法です。結石を1～2mm大に砕いて抽出できるという効率的利点がありますが、腎瘻による出血のリスクや硬性腎盂鏡を用いて行うため直線的位置にある結石以外はアクセスできないという位置的欠点があります。

濟生館における尿路結石手術件数

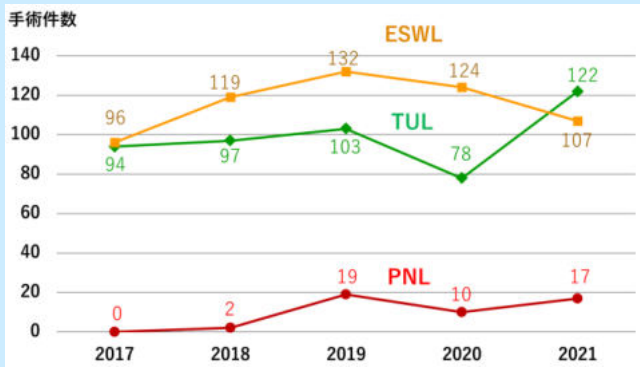
濟生館における尿路結石手術件数は2019年には296件まで増加しました。しかし、2020年にはコロナ感染拡大の影響で前年の2割程度減少しましたが、2021年には277件まで回復しています（図2）。

図2 濟生館の尿路結石治療の年度別手術件数



術式ごとの件数を見ると、従来は ESWL が最も多く行われていましたが、最近では TUL の件数が ESWL を上回っています (図 3)。

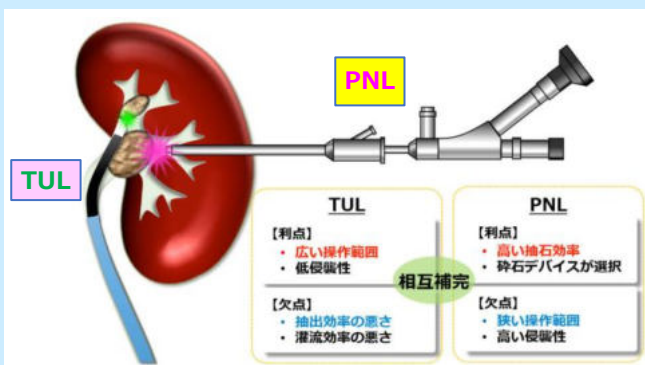
図 3 済生館の上部尿路結石治療の術式別件数



ECIRS の治療成績

経皮経尿道的同時腎砕石術 (ECIRS) は TUL と PNL を同時に行うことで、TUL の効率的欠点と PNL の位置的欠点を相補することを可能にした新規高難度手術です (図 4)。術者が 2 人必要、複数の内視鏡モニターや X 線透視装置、超音波診断装置などそれを操作するスタッフも必要となるため、条件が整わなければ施行できないというデメリットもあります (図 5)。

図 4 ECIRS とは



名古屋市立大学 泌尿器科HPより一部改変

図 5 ECIRS の手術風景



済生館では 2019 年 5 月から本格的に ECIRS を導入し、2022 年 3 月まで 25 例 (延べ 50 回) に施行しました。症例を重ねるごとに 1 例当たりの手術回数が減ってきており良好なラーニングカーブが得られています (図 6)。また、Clavien-Dindo 分類で Grade III 以上の合併症を認めず、安全に問題なく ECIRS を遂行できています。

図 6 ECIRS の症例数と手術件数の推移

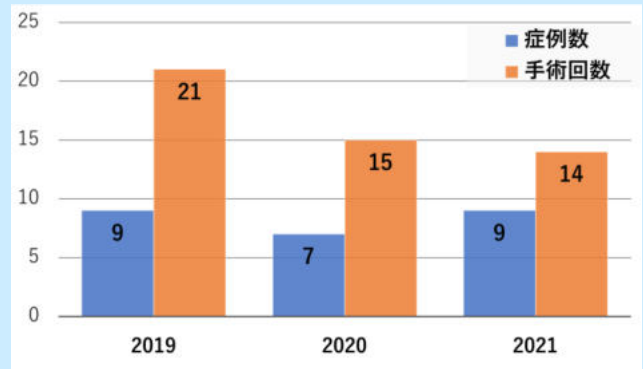
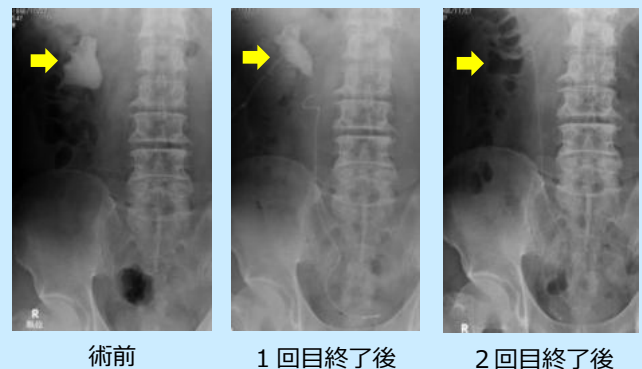


図 7 に実際の症例の X 線写真を示します。55 歳、男性のほぼ右腎盂全体を占めるような大きな右珊瑚状結石に対し ECIRS を 2 回施行し、完全砕石に至りました。手術時間は 1 回目 215 分、2 回目 200 分で、術後合併症なく、入院期間は 15 日間でした。

図 7 症例 (右珊瑚状結石)



おわりに

尿路結石は良性疾患ではありますが、ときに疼痛だけでなく、多量の出血や重症感染症、腎機能障害を引き起こして生命に危険を及ぼす可能性もあります。当院では、症例ごとに適切な治療を提供したいと考えておりますので、尿路結石症の患者さんがおられましたら是非ご紹介いただくと幸いです。また、尿路結石以外の泌尿器疾患についても適切な標準治療を提供して地域医療に貢献できるよう研鑽を積んでいく所存ですので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

“糖尿病とともに歩む人”を支える治療サポート



地域糖尿病センター 副室長
糖尿病ケアチーム 糖尿病看護認定看護師 石山 由紀子

当院では、「糖尿病ケアチーム(医師3名と看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師など日本糖尿病療養指導士12名)」を中心として、“糖尿病とともに歩む人”をサポートできるように取り組んでいます。

「地域糖尿病センター」では「循環型の診療システム」により診療所の先生から紹介された患者さんに専門的な診療や合併症の検査、眼科診察(水・木曜日)、療養指導を行い、終了後は紹介元の先生方に再び通院していただく診療体制を構築しております。

糖尿病専門外来では、昨年度は206件の「糖尿病透析予防指導」を実施し、医師・管理栄養士・看護師のチームで糖尿病腎症の進展悪化を予防するために取り組んでおります。「フットケア外来」では昨年度は67件実施し、足の状態を患者さんと観察し、簡易的な神経・血流のチェックを行い「足病変」の回避について説明し、爪や胼胝についてもセルフケアが困難な患者さんへ予防的フットケアを行っています。

当院では、「糖尿病ケアチーム」以外にも23名の山形県糖尿病療養指導士とともに糖尿病の患者さんが元気に安心して日常生活ができるように引き続き尽力していきたいと考えております。



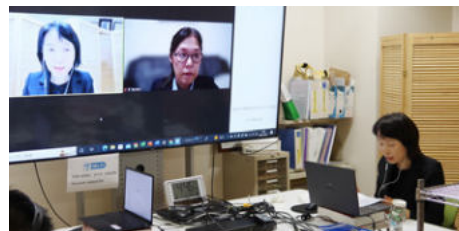
▲五十嵐地域糖尿病センター 室長(前列左から2番目)とチームのメンバー



◀フットケアの様子

「第52回 日本リハビリテーション医学会東北地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会」が開催されました

令和4年10月1日(土)、「第52回 日本リハビリテーション医学会東北地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会」が当院リハビリテーション科 金内ゆみ子 科長が主催責任者となり、Web形式で開催されました。当日は150名を超える参加者があり、日々実践しているリハビリテーションに関する数々の事例発表等が行われました。



▲主催責任者として挨拶する金内科長

感染対策に関する診療所訪問を実施しました

令和4年度診療報酬の改定に伴い「外来感染対策向上加算」が新設されています。令和4年10月13日(木)、済生館を連携医療機関として届出をしてくださった高橋胃腸科内科医院 高橋邦之先生を当院呼吸器内科 岩淵勝好 科長及び富樫感染管理認定看護師が訪問し、高橋先生の院内感染対策に関する取り組みについて拝見させていただきました。今後も、地域の感染対策向上のために先生方と一緒に取り組んでまいります。



▲高橋邦之先生(左から2番目)とスタッフの皆さん。岩淵医師・富樫看護師も一緒に。

* 済生館との連携をご希望される場合は、地域医療連携室へご連絡をお願いします。

山形市立病院 済生館

〒990-8533 山形市七日町一丁目3番26号
TEL 023-625-5555 (代表) URL www.saiseikan.jp

地域医療連携室

TEL 023-634-7116 FAX 023-626-6517
TEL 023-626-6516 (予約当日受付専用)
Email renkeishitu@saiseikan.jp

*掲載している写真は患者さんの同意を得たうえで掲載しています。

編集 発行元 / 山形市立病院済生館 地域医療連携室